

【T&S Monthly News 潮風みらい通信 2026年6月号】

今月のメニュー

1. 今月の特集：トップエンジニアが語る！医療システム開発の最前線
2. TSSS(T&Sショートショート)：新入社員個人開発演習発表会
3. 今後のスケジュール

いつもご覧いただき、ありがとうございます。

T&S Monthly News を通じて、様々な情報を発信してまいります。
今月の潮風みらい通信は、トップエンジニアが語る！医療システム開発の最前線についてレポートします。TSSS では先日行われた新入社員による個人開発演習発表会についてご紹介します。



1. 今月の特集：トップエンジニアが語る！医療システム開発の最前線

医療の現場を支えるシステム開発。その裏側では、どのような課題と向き合い、どのような技術が使われているのでしょうか。今回は、医療関連システムの開発に携わるトップエンジニアに、プロジェクトの現状について話を聞きました。

—まず、プロジェクトの概要について教えてください。

現在担当しているのは、医療関連のシステム開発プロジェクトです。コロナ禍より前からスタートしていて、今も継続している長期プロジェクトになります。

具体的な内容は守秘義務の関係で詳しくはお話しできませんが、医療画像を扱うシステムで、非常に高い計算精度が求められる領域です。当社の開発チームは4名とコンパクトですが、密度の高い開発を行っています。

—医療システムならではの難しさはどんな点でしょうか？

まず大きいのは、DICOM という医療画像の国際規格に準拠する必要があることです。この規格を正しく理解しないと、そもそもシステムとして成立しません。また、医療分野ということもあり、「誤差が許されない」世界です。一般的な業務システム開発以上に、正確性や信頼性が求められます。

—技術的に特に難しいと感じる部分はどこですか？

システム内で使用する計算処理の設計と、それをコードに落とし込む部分です。例えば、以下のような計算処理を実装しています。

- Deformation Vector Field(DVF)変換
- Dose-difference(DD)法
- Distance-to-agreement(DTA)法
- ガンマ解析法
- ROI(Region of Interest)体積算出
- DVH(Dose Volume Histogram)算出

これらは医療画像をどう解析・処理するかに関わる重要な部分です。数学的な理論として理解するのと、実際にソフトウェアとして動かすのとではまったく別の難しさがあります。



—処理において重視しているポイントは何ですか？

相反する要素なのですが、大きく2つあります。1つは計算の処理速度、もう1つは計算結果の精度です。医療画像はデータ量が多く、現場では時間的な制約もあります。そのため、処理速度は速くなければいけません。一方で、スピードを優先して精度が落ちてしまっても意味がありません。この「スピードと精度の両立」が、常に大きな課題になっています。プログラム設計(最適化設計) → 実装 → テスト → 評価試験という流れを何度も繰り返します。「できた」と思っても、検証してみると課題が見つかることも多いです。試行錯誤を重ねながら、少しずつ完成度を高めていきます。これは、当社(イントフォー株式会社)の高速化サービスで提供している内容の一つです。

—少人数チームでの開発の特徴は？

4名という規模だからこそ、1人ひとりの役割が大きく、技術的な議論も非常に濃いです。「この計算方法で本当に正しいのか？」「もっと効率的な方法はないか？」といった議論を日常的に行っています。その分、自分自身の成長も実感しやすい環境ですね。



—このプロジェクトで得られる成長とは？

医療システム・画像処理・実装力といった専門性が身につくのはもちろんですが、それ以上に、論理的に考える力、問題を分解して解決する力、粘り強く検証する力が鍛えられます。

—最後に、読者の皆さまへメッセージをお願いします。

医療システムの開発は、決して目立つ仕事ではありませんが、確実に社会を支えている仕事です。日々の開発の中では難しい課題に直面することも多く、試行錯誤の連続ですが、その分、課題を乗り越えたときの達成感や、技術として形になったときの喜びは非常に大きいものがあります。こうした積み重ねが、医療の現場を支え、誰かの安心につながっていると実感できることが、この仕事の一番のやりがいです。この記事を通して、少しでも開発の現場の面白さや奥深さが伝わっていれば嬉しいです。今後も、より良いシステムを届けられるよう挑戦を続けていきます。

2. TSSS(T&Sショートショート)：新入社員による個人開発演習発表会

5月29日、新入社員研修の一環として「個人開発演習発表会」を開催しました。

本演習は、新卒エンジニア研修の一環として実施されたもので、新入社員たちが5日間という限られた期間の中で、自らテーマを設定し、システムの企画・開発・発表までを行いました。当日は本社近郊の会場に経営陣や先輩エンジニアらが参加する中、一人10分の持ち時間で成果発表を行いました。



今回の演習では、テーマを自由設定としたことで、新入社員一人ひとりの興味や発想力が反映された多彩な作品が披露されました。旅行管理システム、論文管理システム、映画鑑賞記録システム、楽曲分析システム、天体観測支援システム、ポケモン図鑑など、実用性と独創性を兼ね備えた作品が数多く発表されました。

中でも、「社交辞令を消すアプリ」は、仕事のチャットやメールの中から社交辞令と思われる表現を削除・変換し、コミュニケーションの本質を一言で表すというユニークな着眼点が注目を集めました。身近な課題に着目し、それをシステムとして形にする発想力は、多くの参加者に強い印象を与えました。

発表後の質疑応答も非常に活発で、参加した先輩エンジニアや管理職からは技術面だけでなく、利用者視点や事業性の観点からも多くの質問やアドバイスが寄せられました。新入社員たちは、自ら開発したシステムの意図や工夫点について堂々と説明し、短期間での大きな成長を感じさせる発表となりました。

ティアンドエスグループでは、技術力の習得だけでなく、自ら課題を見つけ、考え、形にする力を重視した人材育成を行っています。今回の発表会を通じて、新入社員一人ひとりの可能性と将来性を改めて実感することができました。

新入社員が見せた挑戦する姿勢と成長力は、当社グループの未来を支える大きな財産であることを実感させる発表会となりました。今後も次世代を担うエンジニアの育成に継続的に取り組み、企業価値の向上につなげてまいります。

3. 今後のスケジュール

◇ 7月15日 T&S Monthly News 潮風みらい通信 2026年7月号発行

メール会員募集中です。登録はこちらから ⇒ <https://www.magicalir.net/4055/mail/index.php>